

HOTERES

週刊 ホテルレストラン

2012 **2** | **3**

キーワードはコストダウン
ホテル映像配信システムは
さらなるデジタル化へ

ミハル通信



特別企画
緊急提案 激変する
客室内映像サービス

キーワードはコストダウン！ ホテル映像配信システムはさらなるデジタル化へ

ミハル通信(株)

●問い合わせ先 ミハル通信(株) 企画部 神奈川県鎌倉市岩瀬1285 ☎0467-44-9111 <http://www.miharu.co.jp/>

2010年、従来の製品に比べ、サイズにして1/2、価格にして1/3というスペックを実現し、映像関連機器業界の話題をさらったミハル通信(株)のデジタル変調器MR3000XとMR5000X。今年は、「コストダウン」をキーワードに、MRシリーズと地デジテレビを活用した、ホテルの客室映像ソリューションを提案していくという。今回の狙いを同社の企画部主査の小笠原顕也氏に聞いた。



スカパー！HD対応チューナー内蔵OFDM変調器

ホテルの「地デジ化その後」 映像システムのフルデジタル化を 目指して

昨年の7月、これまでのアナログのテレビ放送が終了し、すべてデジタル放送に切り替わるという歴史的な転換が行われた(東北3県除く)。その結果、ホテルでもすべての客室に地デジ対応テレビが導入され、宿泊客が美しいハイビジョンの映像を楽しむことができる環境が整えられた。

しかし現状はというと、通常のTV番組はデジタルの高画質で視聴できるのに、お客さまサービスであるはずの有料放送は相変わらずアナログ映像のままという不可思議な現象が続いているという。それについて前述の小笠原氏は「地デジテレビの導入で予算的に厳しく、また現テレビはアナログ放送も見られるので設備投資が見送られているのではないかと残念そうに語る。

確かにアナログから地デジ移行期のテレビには、アナログ放送の受信チューナーが内蔵されており、それを利用していけば、既設のアナログ自主放送などはこれまで通り客室で視聴することができる。しかし、画質・音質の差は歴然で、前述の通り、奇

妙な逆転現象が起こっている。さらに、現在販売されているテレビにはアナログチューナーは搭載されておらず、万が一、客室のテレビが故障・廃棄となり新しいテレビを購入した場合、その部屋だけ有料チャンネルを利用できないというトラブルも予想される。そんな事態を招かないために、館内映像・放送システムを一刻も早く完全デジタル化すること、「地デジ化その後」への対応が求められている。

導入時のコストダウンを実現する スペックと価格

昨年ミハル通信からリリースされたデジタル変調器「MR3000X」と「MR5000X」は、自主放送の映像音声信号を、地上デジタル放送と同じ方式(OFDM)に変調することにより、館内の地デジ対応テレビにて視聴することを可能にする製品。「MR3000X」は主に館内の自主放送向け、「MR5000X」はスカパー！チューナーを内蔵することにより、受信したCS放送を同様にOFDMに変調するシステムだ。しかも通常は受信器、変調器といったそれぞれバラバラに存在していた機器を1台にまとめたオールインワンタイプで、サイズ

は従来の1/2とコンパクトで、場所を取らず、配線トラブルも減少という画期的な製品だ。何よりも価格がこれまでの製品に比べて1/3というのも見逃せない。

「これまでの共聴システムを一新してデジタル化するのでは、莫大な費用がかかってしまいます。完全デジタル化が進まないのはやはりコストの問題。そこで、これまでのシステムはそのままに、環境に合わせて館内放送のデジタル化を実現できる製品、それがMR3000XとMR5000Xです。導入しやすくするため、機器自体のサイズ、機能、価格ともこれまでの常識では考えられないスペックを実現しました」と小笠原氏はMRシリーズのメリットを強調する。

機器メーカーの枠を超えて、 さらなるコストダウンへチャレンジ

これまで、CATV関連の映像伝送機器メーカーとして、実績を積み上げてきたミハル通信だが、今回のMRシリーズのリリースをきっかけに、本来は異業種であるホテル関連の企業との交流を通じて、ある変化が生まれたという。

「これまでは製品を作るだけで、使い方はユーザー任せという従前の製

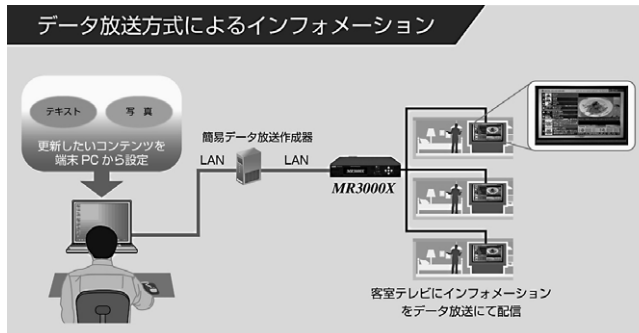


ミハル通信 企画部 主査 小笠原顕也氏

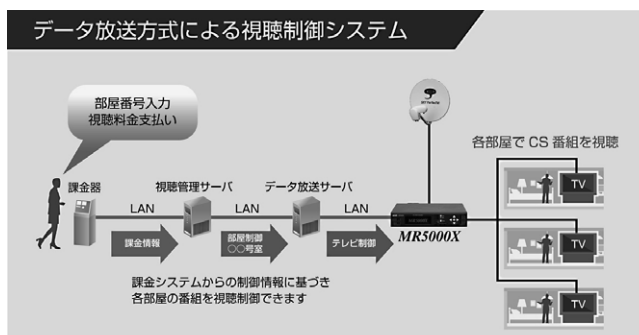
造メーカー的な考え方でしたが、異業種に参入することによって、お互いのノウハウを積極的に交換・活用し、新たな展開を作っていこうという流れになりました。そこで出来上がったのがMR3000X、MR5000Xを使った館内映像配信ソリューションです。よくある使用例の提示にとどまらず、アプリケーションを共同開発する形でモデルを構築しました」と小笠原氏は新たな試みについて語る。

「着目したのが各部屋に完備された地デジ対応テレビ。これまでのアナログテレビと違い、データ放送用など今までにない便利な機能を活用し、お客さまへのサービスを拡充します」

小笠原氏が語る通り、実は地デジ化がもたらした最大のアドバンテージは、客室に高性能なテレビが標準装備されたことだ。ハイビジョンの映像はもちろん、利用可能なサービスが飛躍的に増え、ネットワーク機能を利用してサーバで直接制御することもできる。しかし、この地デジ対応テレビを生かしているホテルはまだ

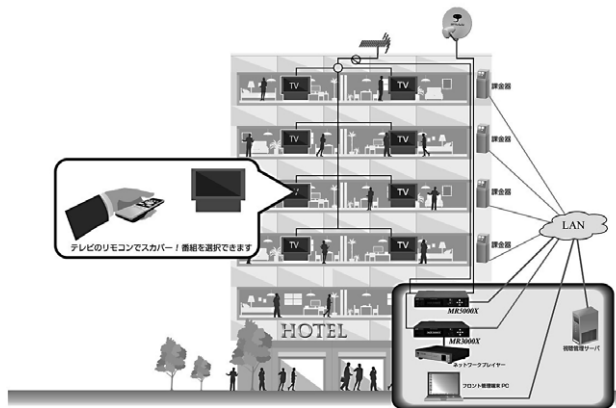


MR3000Xを利用し、専用アプリケーションで手軽にホテルインフォメーションを制作・配信。ランニングコスト的にも魅力的だ



課金システムとMR5000Xを使った視聴制御システム。ミハル通信の製品は2/21~24に東京ビッグサイトで開催されるHOTERES JAPAN 2012でも見ることができる

MR5000X スカパー！HD対応チューナー内蔵 OFDM変調器



MR5000Xを導入すれば、これまでのシステムを使ってスカパー！を地デジテレビにて視聴可能

多くない。では具体的に館内映像配信ソリューションとはどのようなソリューションなのだろうか？

「まずはスカパー！チューナー内蔵のMR5000Xと課金システムを連携させデータ放送を使った視聴制御。課金システムからの指示により、料金をお支払いいただいた客室に対し有料チャンネルを視聴可能にします。有料チャンネルの利用が確認されるまでは、案内画面を表示し、視聴の制御は、

視聴管理システムと連動した専用のアプリケーションで自動的にこなす仕組みです。課金システムを含め、さまざまな代理店さまと連携を図っていきたく思っております。

またMR3000Xでは、これまで業者に外注委託して制作していたホテルのインフォメーション画面を、PCで手軽に制作し、データ放送を利用し配信するシステムを提案します。更新したいコンテンツを簡単なテンプレート画面を利用してPCで制作すれば、それがそのまま客室のテレビで見られます。イベントの急な変更

などお客さまに伝えたい情報をすぐに告知できるので、使い勝手のよいインフォメーションチャンネルを構築できます。どちらもこれまでお使いのシステムに専用アプリケーションとMRシリーズを追加するだけ。当社はイニシャルコストの掛からないデジタル化を応援していきます」と小笠原氏は力強く語る。

映像伝送機器メーカーの枠を超え、チャレンジを続けるミハル通信の次なる展開が楽しみだ。

未来を届けるテクノロジー



MIHARU

MR5000X

スカパー！HD対応チューナー内蔵
OFDM変調器



スカパー！番組を地デジテレビで視聴できます

チューナー、OFDM変調器が一体型

- 複数の機器を設置する必要がなく操作性が向上、設置スペースもとれません
- 一体型により不正利用を防止できます

各課金システムと連携

- 既存の課金システムと連携し番組の視聴制御が可能です

HD映像、SD映像に対応

- スカパー！で配信されるHD映像はもちろん、SD映像も配信できます



客室テレビが最新のハイビジョンシアターに変わる

ANNIVERSARY
第40回

HOTERES JAPAN

国際ホテル・レストラン・ショー に出展いたします

会期：2月21日（火）～24日（金）

会場：東京ビッグサイト東4ホール 4-K06

三井通信株式会社

本社 〒247-8538 神奈川県鎌倉市岩瀬 1285

TEL:0467(44)9111(代)

東京 大阪 仙台 広島 福岡

<http://www.miharu.co.jp>